

## 藤岡会長講演概略 ～高校の魅力化について～

### ○全国の現状

- ・少子化が進む地域の公立高校が統廃合  
→6校に1校が10年以内に統廃合
- ・高校がなくなると小中学校がなくなり、人口が半減  
→病院よりも高校がなくなる方が人口減の影響が大。高校が人口減少の歯止めに
- ・教育が子育て世代の移住定住の大きな要因  
→東京の20、30代の4割程は、子育て環境を変えるため地方移住を考えている
- ・高校に通えない地域のUIターンは高校に通える地域の1/20  
→自分の地域に帰ってこようと思ったら、高校がないと帰れない現状
- ・教育の魅力化が人口減少対策になっている  
→島根県は教育への支援の結果、人口減が下げ止まり、2040年に社会減をゼロにする目標
- ・高校存続による経済効果  
→高校がある現実の石川県能登町と高校がない仮想能登町を比較した結果、無い場合、1年間で人口が200人減、24億円の減経済効果。

### ○高校魅力化プロジェクト（島根県隠岐島前（どうぜん）高校の例）

- ・小規模高校の苦しい状況  
→教員定数削減、選択科目の少なさなど教育機能の維持困難
- ・離島の学校は幅広い学力等の対応が必要。教員数も少なく教育困難  
→隠岐島前高校は、生徒の学力差が大きく、教育困難地域へ。教育困難地域に住みたくない人が加速度的に増加
- ・「高校魅力化プロジェクト」発足  
→「町として何ができるか」から議論がスタート  
→存続を目指すも存続しない。行きたい、行かせたい、活かしたい魅力づくりが必要  
→魅力化とは「本質を見極め、磨きをかけること」、経営学の「選択と集中」
- ・島前地域の人づくりの課題と方針  
→「仕事をつくりたい」をキーワードに、事業と産業をつくり出せる人材育成
- ・魅力化の3本柱  
→①高校でのカリキュラム改革、②公営塾、③教育寮  
→その地域・学校でなければ学べない独自カリキュラム  
→学力・進学を保障する公営塾の設置  
→全人教育でリーダーシップやコミュニケーション能力を育む教育寮の設置
- ・超人口減少、超少子高齢化、財政難など日本は世界の重要課題の最前線（p10）  
→日本は課題先進国で地域は社会の縮図。今後100年間で日本の人口は半減。  
100年間で人口が半減した国は有史以来なし

### ○特色ある高校での学び

- ・政府の教育再生実行会議の第11次提言では、普通科の改革を求めた
- ・特色化といっても学力や地域の自然以外に差別化が必要
- ・特色化によっては全国から生徒は集まるが、地元から来なくなる傾向もあり

### ○全国の事例

- ・広島大崎海星高：「潮目学」「羅針盤学」「航界学」、入学者増で存続決定
- ・長野白馬高：インバウンドを生かした国際観光科設置。入学者増で存続決定